

平成25年度 第2回連携テーマ部会 記録メモ

■日時：平成26年1月23日（木） 9時00分～12時00分

■場所：高知城ホール 中会議室

■出席者：名簿および配席図のとおり

◎質疑・意見交換内容（要旨）

○産学官連携による力強い産業の礎を築く

【A部会員】

- ・ 県民が安心して働ける場をつくらないといけない。農業の取り組みをすることで労働従事者は増えてくるのか。ものづくりで感じるのは、新産業を生み出さないといけないが、それをどう作りどこへ売るか、それを売るための人材をいかに育てるかを考える上で「知識」は絶対的に必要ということ。大学で研究する人材が不足しているということも聞いており心配している。

→（農業振興部）安心して働ける場所づくりとして、すぐれた技術を若者などに伝えるために、県内205カ所に「学び教えあう場」がある。経験のある人の話を実際に見聞きして伝授してもらっている。これを新しい取り組みにより数値化して機械に入れてできるようになると、お年寄りも若者も農業に参入しやすくなる、と考えている。

- ・ 農業が工業になってしまうのではないか。農業は思い入れのあるもので、人間のやるものだと思う。それが一次産業のベースだと思う。技術を伝授するとしてもそのことを忘れないでほしい。

○中山間の暮らしを支える産業づくり

【B部会員】

- ・ 小さなビジネスは重要なテーマである。効率や効果で考えると結果が見えにくい。ため行政としては難しいと思うが、そこに住んでいる人のボトムアップをしていかないけない。やる気や精神的なところにかかわってくる。縮小するのではなく、集落活動センターと絡んで一緒に充実させていってほしい。柔軟性は必要だと思うので、効果的な制度にしてもらいたい。

【C部会員】

- ・（シェアオフィス事業について）入居する事業者に対する事業面での支援は必要だが、生活面での支援も必要と考える。何か手立てを考えているか。

→（商工労働部）地域に根付いていただくためには、生活面での困りごとへの対応や

地域との交流促進も重要な課題と認識している。この部分については、入居事業者の状況や課題を把握しやすい市町村、移住支援 NPO など、主に地域の方々に担っていただきたいと考えている。加えて、入居事業者の支援に関する情報を共有するため、県や町などの自治体をはじめ、商工会や移住支援 NPO などによって支援者会議を設置し、事業や生活などを一元的にフォローアップしていく。

○産業人材の育成・確保

【A部会員】

- ・ 新聞に、中学校時代に不登校や遅刻する癖のついた子供は社会人になっても低賃金のところにいるというのが掲載されていた。なぜ不登校になるのかという問題意識をもてるようにしてあげないと、本人は問題と思っていない。それが問題となりますよと掘り起こしていかないといけない。人材育成の範囲は広いがその中の一部でも何かしないと。

→ (教育委員会事務局) キャリア教育を三つの柱でやっている。その一つが基本的な生活習慣を身につけるということ。やるときはやる、決められた時間は守る、という生活習慣を保育所や幼稚園、小中学校から身につけていく。それが社会人としての重要な要素の一つであるので、早い段階からやっていかないと。家庭や社会と一緒に子供を育てていくことが大事であり、高等学校についてもしっかりと社会性を身につけるということをやっていききたい。

【D部会員】

- ・ 林業労働力、低いときは1500人台に落ち込んでいたのが1600人と増えている傾向にある。これは行政からの支援も大きい。ただ、1600人規模の従業員の定着率ができてこない、技術力、生産性に反映できない。定着する方法をつかんでいかないといけない。金になれば人材は定着する。木材価格が下落すると所得賃金にも反映する、これは問題。産業構造としての出口対策にも踏み込んでもらわないと山の雇用労働力は定着しないと考えている。

新たに期待しているのが、CLT工法で、これは従前の木材の需要量の約3倍にあたる。また、バイオマス発電も低質材の出口が見えてくることで金が入る仕組みづくりになるのではないかと。

産学官連携でもう一つ踏み込んでほしいのが、需要拡大の出口対策。CLT工法にしても外材に取って代わられては意味がない。国産材の需要拡大定着につながるだけのを進めてほしい。

→ (林業振興・環境部) 出口対策等については、木材産業課の方になるのだが、林業

振興・環境部としてはCLTなど木材需要の拡大、木質バイオマスの利用拡大に取り組んでいる。このために必要な原木の生産拡大や安定的な供給体制を図っていくことに併せ、担い手の育成確保等についても取り組んでいる。